

■第2回ソフィア大会(1961)

三栗崇選手が初参加し、個人総合で金メダルを獲得した。(団体総合はなし)

■第3回ポルトアルグレ大会(1963)

団体初代チャンピオン国となり、個人総合も松元正竹(1位)、加藤武司(2位)、早田卓次(3位)とメダルを独占し

■第4回ブタペスト大会(1965)

団体2連覇を達成し、個人総合でも中山彰規選手が優勝した。

■第5回東京大会(1967)

地元東京開催の大会で団体3連覇を達成。個人総合も中山彰規(1位)、加藤武司(2位)、加藤澤男(3位)と2度目のメダル独占。中山選手は2連覇を達成した。また、女子も団体初優勝。松久ミュキ(1位)、香取光子(2位)と、個人総合でも金、銀のメダルを獲得した。なお、中山選手が全競技の選手団主将になる。

■第6回トリノ大会(1970)

男子団体4連覇。女子は2位。男子個人総合では岡村輝一(1位)、藤森竜二(2位)となり、個人総合タイトルは5連覇に。

■第7回モスクワ大会(1973)

団体は男女ともソビエトに次いで2位となる。種目別が加わり、梶山広司選手がゆかとあん馬で銀メダル、錦井利臣選手が鉄棒で銀メダルを獲得。男女合わせて銀メダル5つ。本間二三雄選手が全競技の選手団主将に。

■第9回ソフィア大会(1977)

男子団体はソビエトに次いで2位、女子は4位でメダルを逸す。2度目の出場となる梶山広司選手が個人総合タイトルを奪還。さらに種目別ゆか(1位)、あん馬(3位)、平行棒(2位)鉄棒(2位)を獲得。また、後藤清志選手が鉄棒で優勝した。

■第10回メキシコシティ大会(1979)

三上肇選手が全競技日本選手団の主将になる。男子団体またも2位。山脇恭二選手(跳馬優勝、あん馬とつり輪3位)、三上肇選手(つり輪と鉄棒3位)、北川淳一選手(鉄棒3位)が種目別でメダルを獲得。女子メダル獲得なら

■第11回ブカレスト大会(1981)

男子団体4位となり、初めてメダルを逸す。外村康二選手の平行棒金メダルのみに終わる。

■第12回エドモントン大会(1983)

再び男子団体4位でメダルを逃す。辛うじて村松俊哉選手があん馬で3位となりメダル獲得。女子団体は7位に低

■第13回神戸大会(1985)

2度目の国内(神戸)開催で、男子団体2位となる。渡辺光昭選手、岡部洋昭選手が同点で個人総合3位を獲得。森尾麻衣子選手もゆか3位となり銅メダルを獲得。女子としては第7回大会以来久しぶりのメダル獲得となる。

■第14回ザグレブ大会(1987)

メダル獲得は男子団体3位のみ。女子は団体5位となり、前回、前々回の7位から浮上。

■第16回シェフィールド大会(1991)

男女合わせて金メダル1個、銀メダル6個、銅メダル6個を獲得する大躍進。男子は団体2位、女子は4位。男子個人総合で西川大輔選手が2位、松永政行選手が3位を獲得。種目別では西川選手(つり輪3位)、松永選手(平行棒と鉄棒2位)に加え、相原豊選手がゆか2位、跳馬と平行棒3位を獲得した。さらに女子において瀬尾京子が個人総合3位、跳馬優勝、段違い平行棒2位、平均台3位。第11回大会後、獲得のなかった金メダルを女子の瀬尾選手が獲得した。

■第17回バッファロー大会(1993)

男子団体7位と低迷。女子は3位に入り、団体で久しぶりのメダルを獲得。個人としては、男子ゆかで西川大輔選手が、女子段違い平行棒で瀬尾京子選手がそれぞれ銀メダルを獲得した。松永政行選手が全競技選手団の主将

■第18回福岡大会(1995)

国内3度目の大会で男子団体久しぶりの優勝。女子は5位。増田宏正選手がゆか2位、つり輪3位。畠田好章選手があん馬3位。そして田中光選手がつり輪と鉄棒で3位を獲得した。

■第19回シチリア大会(1997)

菅原リサ選手が平均台とゆかで優勝。個人種目で日本人女子として初めて複数の金メダルを獲得。さらに菅原選手は団体3位、個人3位、段違い平行棒2位となり、一人で金2、銀1、銅2の5つのメダルを獲得する大活躍。男子団体は2位となり、第7回大会以来、久しぶりに男女で団体メダルを獲得した。男子の金メダル獲得は塚原直也選手の跳馬と斉藤良宏選手の鉄棒。その他、藤田健一選手があん馬で2位、畠田好章選手がダブルコバチを決めて鉄棒3位。なお、その畠田選手が全競技選手団の主将に。

■第20回マヨルカ大会(1999)

男子団体6回目の優勝。笠松昭宏選手がゆかで、塚原直也選手が平行棒で3位を獲得。女子はメダル獲得なら

■第21回北京大会(2001)

男子団体は地元中国に次いで2位。個人総合で塚原直也選手と富田洋之選手が同点で2位。さらに富田選手は平行棒で優勝し、あん馬でも銀メダルを獲得した。なお塚原選手が全競技選手団の主将に。

■第22回テグ大会(2003)

世界選手権・アナハイム大会直後の大会のため、世界選手権代表からは選ばずに大会に臨み、男子団体3位となり5大会連続の団体メダル獲得。男子団体は地元韓国が初優勝。なお、個人としては芳村裕生選手が個人総合と平行棒で銅メダルを獲得した。

■第23回イズミル大会(2005)

男子団体は3期ぶり7度目の優勝。女子団体は前回同様5位に。男子個人は、富田洋之選手が1977年ソフィア大会の梶山広司選手以来の優勝。個人3位に鹿島丈博選手が入る。種目別でも富田選手がつり輪と鉄棒で、鹿島選手が平行棒で優勝し、過去最高の金メダルを獲得した。

■第24回バンコク大会(2007)

男子団体は連覇。女子団体は4位へ。男子個人も水鳥寿思選手が優勝して連覇を達成。水鳥選手は鉄棒でも金。ほか、種目別ゆかで内村航平選手、平行棒で上田和也選手が優勝し、前回大会同様合計5個の金メダルを獲得し

■第25回ベオグラード大会(2009)

男子団体は3連覇。女子団体は惜しくも4位。男子個人も星陽輔選手が優勝して3連覇を達成。ほか、中瀬卓也選手が平行棒で金、鉄棒で銀。種目別鉄棒で渡辺恭一選手が銅メダルを獲得し、金3、銀1、銅1の合計5個のメダルを獲得した。

■第26回深チェン大会(2011)

男子団体は4連覇。女子団体も優勝(1967年東京大会以来)。個人は山本翔一選手(男子)、山岸舞選手(女子)がともに2位で銀メダルを獲得。ほか、美濃部ゆう選手が段違い平行棒と平均台で金メダル獲得の快挙。今大会では金4、銀5、銅3の合計12個(過去最高)のメダルを獲得した。

■第27回カザン大会(2013)

男子団体は3位、女子団体は2位。個人は男女ともにメダルを逃す。加藤凌平選手がゆかで金メダル獲得。

■第28回グアンジェ大会(2015)

男子団体2大会ぶりの優勝、女子団体は2大会連続2位。個人総合では男女ともにメダルを獲得し、種目別では早坂尚人選手がゆか、美濃部ゆう選手が平均台でそれぞれ金メダルを獲得。その他の種目でもメダルを量産し、金3、銀7、銅4でメダル総数14個となり過去最高を記録した。なお、試合方式が団体総合を2日間に分けて男子は3種目ずつ、女子は2種目ずつ行う変則方式で実施。

■第29回台北大会(2017)

男子団体2連覇達成、女子団体は4大会連続メダル獲得。個人総合で男女ともにメダルを獲得。審判員が少なく、一人の審判員が2種目を担当する対応で、一つの種目に2か国が編成される変則方式の実施。

■第30回ナポリ大会(2019)

3度目の男女アベック優勝。団体の人数3名(ベスト2)。男女合わせて過去最高の金7個。畠田瞳選手が団体を含め4個の金メダルを獲得し、個人獲得金メダル数の記録を塗り替える。

■第31回成都大会(2023)

地元中国の活躍により、男女とも団体連覇を逃す。個人総合、種目別も中国が強さを見せるものの、男子ゆかで萱が、女子跳馬で宮田が優勝した。ロシア、ベラルーシは不参加(ウクライナ侵攻のため)。